

## 主要な経済指標の発表予定と予測 (2/16~2/20)

経済調査部  
松浦大将  
03-3591-1435  
hiromasa.matsuura@mizuho-ri.co.jp

【来週の注目材料】※（ ）内はみずほ総研予想

- 16日 : 10~12月期の実質GDP成長率1次速報（前期比+1.0%、同年率+3.9%）  
: 12月の設備稼働率
- 18日 : 日銀金融政策決定会合（17・18日）  
: 日銀総裁定例記者会見
- 19日 : 1月の貿易統計（貿易収支▲1兆6,791億円、輸出前年比+10.2%、輸入同▲7.2%）  
: 12月の全産業活動指数（前月比▲0.2%、前年比▲0.7%）  
: 日銀金融経済月報（2月）  
: 内閣府月例経済報告（2月）

### 企業マインド、消費者マインドはともに下げ止まり

9日に発表された1月の景気ウォッチャー調査では、景気の現状判断DIが45.6と前月から0.4ポイント上昇した。雇用関連では正社員の求人が増加しているという声があるほか、企業動向関連では燃料価格の下落が収益を押し上げているといったコメントがみられた。2~3カ月先の見通しを示す先行き判断DIは50.0（前月差+3.3ポイント）となり、5カ月ぶりに景気の良し悪しの境目となる50まで回復した。また、1月の消費者態度指数（一般世帯、季節調整値）は39.1（前月差+0.3ポイント）と2カ月連続で上昇した。暮らし向きや収入の増え方が小幅に悪化したものの、耐久消費財の買い時判断などが上昇した。このところ悪化傾向が続いていた企業・消費者のマインドは、消費増税の延期による景気持ち直しへの期待もあり、足元では下げ止まっている。

### 機械受注は2カ月連続の増加

12日に発表された12月の機械受注（船舶・電力を除く民需）は、前月比+8.3%（11月同+1.3%）と2カ月連続で増加した。製造業からの受注が15業種中10業種と幅広い業種で増加したほか、非製造業（船舶・電力を除く）でも金融業・保険業や運輸業・郵便業などからの受注が増加した。また、2015年1~3月期の内閣府見通しは、前期比+1.5%（製造業同▲2.1%、非製造業同+4.9%）となっている。製造業は2四半期連続で増加した反動から前期比マイナスとなっているが、1兆円を超える高水準を維持する見込みである。非

製造業は4四半期連続で減少するなど弱い動きが続いていたが、今後は徐々に上向くとみられる。

来週は10～12月期の実質GDP成長率（1次速報）や貿易統計などが発表される。

## 実質GDPは高めの成長

16日に発表される10～12月期の実質GDP成長率は、前期比+1.0%、同  
年率+3.9%とプラス成長を予測する。夏場の天候不順の影響がはく落し個人  
消費を中心に民需が持ち直した模様である。また、IT関連を中心に輸出が大  
幅に増加し、内外需ともに成長率の押し上げに寄与したとみられる。

（予測の詳細は1月30日発表の「2014年10～12月期1次QE予測」をご覧ください。

[http://www.mizuho-ri.co.jp/publication/research/pdf/qe/150130qe\\_forecast.pdf](http://www.mizuho-ri.co.jp/publication/research/pdf/qe/150130qe_forecast.pdf)

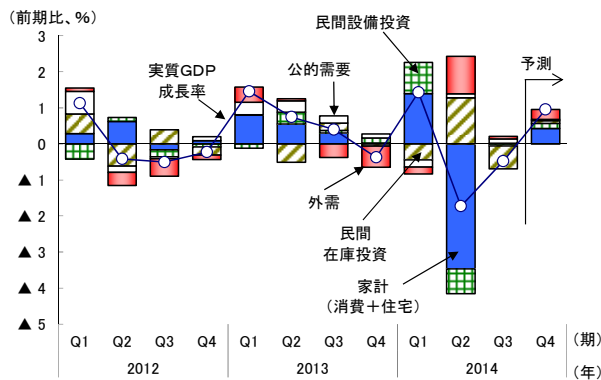
## 貿易赤字は前年同月から大幅に縮小

19日に発表される1月の貿易統計は、輸出金額が前年比+10.2%（12月同  
+12.8%）、輸入金額が同▲7.2%（12月同+1.9%）、貿易収支が▲1兆6,791  
億円（12月▲6,652億円）と予測する。輸出金額は、数量ベースの押し上げが  
続き前年比2ケタ増を維持する見込みである。一方、輸入金額は原油安による  
価格下落が強まり前年割れを予想する。貿易収支は、駆け込み輸入により赤字  
が3兆円近くまで拡大した前年同月と比べて赤字額が縮小する見通しである。

## 全産業活動指数は前月比マイナス

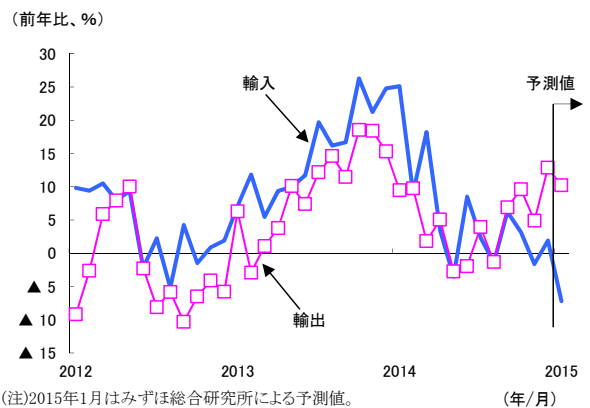
同日発表される12月の全産業活動指数は、前月比▲0.2%（11月同+0.1%）  
と予測する。第3次産業活動指数や公務等活動指数が低下し、全産業活動指数  
は前月比マイナスとなった模様である。

図表1 実質GDP成長率



(注)2014年10～12月期はみずほ総合研究所による予測値。  
(資料)内閣府「国民経済計算」

図表2 輸出入金額の推移



(注)2015年1月はみずほ総合研究所による予測値。  
(資料)財務省「貿易統計」

執筆担当～ 松浦大将

予測担当～ 実質GDP成長率：徳田秀信、貿易統計：大和香織、全産業活動指数：坂中弥生  
米国主要経済指標（ダイアリー掲載分）：山崎亮

●当レポートは情報提供のみを目的として作成されたものであり、商品の勧誘を目的としたものではありません。本資料は、当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成されておりますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。また、本資料に記載された内容は予告なしに変更されることもあります。

## 【 来週のダイアリー 】

日付	経済指標等	予想	前回	前々回	
2/13(金)	米 ミシガン大消費者信頼感指数(2月速報)	[98.1]	98.1	93.6	
2/16(月)	日 GDP(10~12月期1次速報) 前期比	[+1.0%]	7~9月期 ▲0.5%	4~6月期 ▲1.7%	
	設備稼働率(12月)	N.A.	99.8	100.6	
	米 ワシントン誕生日(米国休場)				
2/17(火)	日 20年利付国債入札				
	米 ニューヨーク連銀製造業業況指数(2月)	[+8.5]	+10.0	▲1.2	
	韓 金融政策決定会合				
	印 金融政策決定会合				
2/18(水)	日 日銀金融政策決定会合(17・18日)				
	日 日銀総裁定例記者会見				
	米 鉱工業生産指数(1月) 前月比	[±0.0%]	▲0.1%	+1.3%	
	設備稼働率(1月)	79.9%	79.7%	80.0%	
	住宅着工件数(1月) 年率	[108.0万件]	108.9万件	104.3万件	
	住宅着工許可件数(1月) 年率	[107.5万件]	105.8万件	105.2万件	
	生産者物価指数(1月) 前月比 [食品・エネルギーを除く] 前月比	▲0.4% +0.1%	▲0.3% +0.3%	▲0.2% ±0.0%	
FOMC議事録(1/27・28)					
2/19(木)	日 通関収支 原数値 [▲16,791億円]	▲6,652億円	▲8,952億円		
	貿易統計(1月) 前年比 [-]	-	-		
	輸出 前年比	[+10.2%]	+12.8%	+4.9%	
	輸入 前年比	[▲7.2%]	+1.9%	▲1.6%	
	全産業活動指数(12月) 前月比	[▲0.2%]	+0.1%	+0.1%	
	日銀金融経済月報(2月)				
	内閣府月例経済報告(2月)				
米 フィラデルフィア連銀製造業業況指数(2月)	[+7.0]	+6.3	+24.3		
米 失業保険新規申請件数(~2/14)	[290千人]	304千人	278千人		

予想：[ ]はみずほ総合研究所予想、それ以外はコンセンサス(Bloomberg等)。予定は変更になる可能性があります。

日：日本、米：米国、韓：韓国、印：インド